



2022年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月8日

上場会社名 GMOフィナンシャルゲート株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4051 URL https://gmo-fg.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 杉山 憲太郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 池澤 正光 (TEL) 03(6416)3881
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第3四半期の連結業績(2021年10月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第3四半期	7,446	53.9	563	20.8	562	20.3	358	14.9
2021年9月期第3四半期	4,837	70.6	466	12.0	467	16.9	311	30.5

(注) 包括利益 2022年9月期第3四半期 360百万円(28.9%) 2021年9月期第3四半期 279百万円(27.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第3四半期	86.94	85.94
2021年9月期第3四半期	77.62	74.87

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年9月期第3四半期	6,157	4,552	71.3
2021年9月期	7,136	4,376	59.1

(参考) 自己資本 2022年9月期第3四半期 4,389百万円 2021年9月期 4,216百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	0.00	—	51.00	51.00
2022年9月期	—	0.00	—		
2022年9月期(予想)				57.00	57.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年9月期の連結業績予想(2021年10月1日~2022年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,800	38.2	737	25.1	737	19.0	461	12.1	111.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2022年8月8日)公表いたしました「2022年9月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 -社(社名)、除外 -社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年9月期3Q	4,130,110株	2021年9月期	4,106,320株
② 期末自己株式数	2022年9月期3Q	88株	2021年9月期	65株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年9月期3Q	4,119,393株	2021年9月期3Q	4,014,766株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(会計方針の変更等)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結累計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

当第3四半期連結累計期間（2021年10月1日～2022年6月30日）の業績は以下のとおりです。

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	増減率(%)
売上高	4,837,219	7,446,363	53.9
営業利益	466,636	563,736	20.8
経常利益	467,782	562,966	20.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	311,637	358,129	14.9

a. 売上高

当第3四半期連結累計期間の売上高は7,446,363千円(前年同期比53.9%増)となりました。

当第3四半期連結会計期間（2022年4月～6月）は、決済端末販売を中心としたイニシャル売上が拡大したことに加え、ストック、フィー、スプレッドの合計であるストック型売上に付きましても稼働決済端末台数の拡大、並びに2022年1月に発令された新型コロナウイルス感染症に係わるまん延防止等重点措置の解除による、飲食店や旅行・レジャー関連中心とした加盟店の決済取扱高の回復等を主因として順調に積み上げることができました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,446,363千円となり、期初に公表した通期連結予想売上高の8,550百万円に対して87.1%の進捗率と、日数消化率を上回る実績となりました。

当第3四半期連結累計期間の品目別売上高は、以下のとおりです。

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	構成比(%)
イニシャル (イニシャル売上)	5,234,799	70.3
ストック (固定費売上)	621,446	8.3
フィー (処理料売上)	882,183	11.9
スプレッド (加盟店売上)	707,934	9.5
合計	7,446,363	100.0

b. 営業利益

当第3四半期連結累計期間の営業利益は563,736千円(前年同期比20.8%増)となりました。

当第3四半期連結会計期間（2022年4月～6月）は、上記品目別売上高のとおり、収益性がイニシャル売上に比して相対的に高いストック型売上也順調に拡大したことで粗利益額増加に寄与しました。

一方費用面においては、従業員向けの賞与引当金の計上を主な要因として、また、成長を支える継続的な人材採用を始めとした将来投資を行った結果、第1並びに第2四半期連結会計期間との比較において販売費及び一般管理費が増加しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の営業利益は563,736千円となり、期初に公表した通期連結予想営業利益737百万円に対して76.5%の進捗率となっております。

c. 親会社株主に帰属する四半期純利益

当第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は358,129千円(前年同期比14.9%増)となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は4,660,520千円となり、前連結会計年度末に比べ1,129,057千円減少いたしました。これは主に決済端末の販売が順調に推移したことにより商品が69,779千円、対面キャッシュレス決済市場における当社の競争優位性を確保する目的で、加盟店への入金サイクルを短縮したことから現金及び預金が1,202,436千円減少したこと等によるものであります。固定資産は1,496,696千円となり、前連結会計年度末に比べ150,155千円増加いたしました。これは主にのれんが33,328千円及び顧客関連資産が32,108千円、それぞれ償却により減少した一方で、ソフトウェアが193,154千円増加したこと等によるものであります。

この結果、資産合計は6,157,217千円となり、前連結会計年度末に比べ978,902千円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,575,252千円となり、前連結会計年度末に比べ1,144,430千円減少いたしました。これは主に短期借入金300,000千円が増加した一方で、買掛金が563,153千円、預り金が922,007千円減少したこと等によるものであります。固定負債は29,829千円となり、前連結会計年度末に比べ10,197千円減少いたしました。これは主に繰延税金負債が9,831千円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は1,605,081千円となり、前連結会計年度末に比べ1,154,627千円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は4,552,136千円となり、前連結会計年度末に比べ175,725千円増加いたしました。これは主に剰余金の配当209,419千円により利益剰余金が同額減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益358,129千円の計上により利益剰余金が同額増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想の修正を行いました。修正前の連結業績予想は、2021年11月11日に公表したものです。

当社グループが立脚する対面キャッシュレス決済市場においては、行政による普及促進や決済手段の多様化、更にはwithコロナにおける安心な決済手段への志向も追い風として、キャッシュレス決済を導入する加盟店の増加が促進されてきました。そのような環境の下、当社グループは加盟店のニーズに合った決済端末の販売、決済処理センターの増強、加盟店及びアライアンス先の新規獲得等に注力しております。

当第3四半期連結累計期間における売上高の状況については、「(1) 経営成績に関する説明 a. 売上高」とおり、決済端末販売を中心としたイニシャル売上が順調に推移したこと、並びに稼働決済端末台数の増加によるストック型売上も順調に積み上がったことにより売上高は7,446百万円となり、修正前の通期連結予想売上高である8,550百万円に対する進捗率は87.1%と日数消化率と比較し上振れて着地いたしました。そこで、改めて第4四半期連結会計期間における決済端末の販売予想及びストック型売上予想を精査した結果、通期連結予想売上高を修正前対比1,250百万円の増加となる9,800百万円へ上方修正いたしました。

利益面に関しては、通期連結予想利益の想定超過部分を来期以降への成長投資として充当する方針であり、具体的には管理態勢の強化に向けた採用費の支出、人財に対する業績を反映した賞与による成果還元、システム増強のための業務インフラの整備等の実施を予定していることから、通期連結予想利益については当初予想を据え置く形としております。

詳細は、本日（2022年8月8日）公表しております「2022年9月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,433,620	2,231,184
売掛金	521,859	622,443
商品	1,614,846	1,545,066
その他	222,334	265,035
貸倒引当金	△3,082	△3,208
流動資産合計	5,789,578	4,660,520
固定資産		
有形固定資産	60,281	48,146
無形固定資産		
ソフトウェア	646,884	840,038
ソフトウェア仮勘定	192,938	227,189
顧客関連資産	128,432	96,324
のれん	222,192	188,863
その他	2,549	60
無形固定資産合計	1,192,997	1,352,475
投資その他の資産		
敷金	23,645	23,013
破産更生債権等	995	1,020
繰延税金資産	69,597	73,041
その他	19	19
貸倒引当金	△995	△1,020
投資その他の資産合計	93,262	96,074
固定資産合計	1,346,541	1,496,696
資産合計	7,136,119	6,157,217

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,092,309	529,156
短期借入金	—	300,000
未払法人税等	144,166	111,366
契約負債	—	44,182
預り金	1,129,466	207,459
賞与引当金	89,733	121,000
役員賞与引当金	20,000	33,800
その他	244,006	228,288
流動負債合計	2,719,682	1,575,252
固定負債		
繰延税金負債	39,326	29,494
その他	700	334
固定負債合計	40,026	29,829
負債合計	2,759,709	1,605,081
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,605,446	1,617,987
資本剰余金	1,618,557	1,631,098
利益剰余金	994,020	1,142,730
自己株式	△1,252	△1,971
株主資本合計	4,216,771	4,389,844
非支配株主持分	159,639	162,291
純資産合計	4,376,410	4,552,136
負債純資産合計	7,136,119	6,157,217

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年10月1日 至2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年10月1日 至2022年6月30日)
売上高	4,837,219	7,446,363
売上原価	3,330,792	5,511,729
売上総利益	1,506,427	1,934,633
販売費及び一般管理費	1,039,790	1,370,897
営業利益	466,636	563,736
営業外収益		
受取利息	60	14
その他	1,209	103
営業外収益合計	1,270	117
営業外費用		
支払利息	122	886
その他	2	—
営業外費用合計	124	886
経常利益	467,782	562,966
特別損失		
固定資産除却損	898	—
特別損失合計	898	—
税金等調整前四半期純利益	466,883	562,966
法人税、住民税及び事業税	176,942	215,460
法人税等調整額	9,974	△13,275
法人税等合計	186,917	202,184
四半期純利益	279,966	360,782
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△31,671	2,652
親会社株主に帰属する四半期純利益	311,637	358,129

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	279,966	360,782
四半期包括利益	279,966	360,782
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	311,637	358,129
非支配株主に係る四半期包括利益	△31,671	2,652

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、当社グループの事業において、特定の加盟店獲得を目的としたセンター機能の開発案件について、従来顧客から受け取る対価の総額を一時点で収益を認識しておりましたが、一定の期間にわたり履行義務を充足するにつれて収益を認識する方法に変更しております。これに伴って、財又はサービスを顧客に移転する義務に対して当社が顧客から受け取った対価を「流動負債」の「契約負債」として表示しております。また、「流動負債」の「その他」に含めて表示していた前受金についても「契約負債」として表示しております。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,463千円減少し、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益も、それぞれ7,463千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業セグメントは、対面決済サービス事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。